

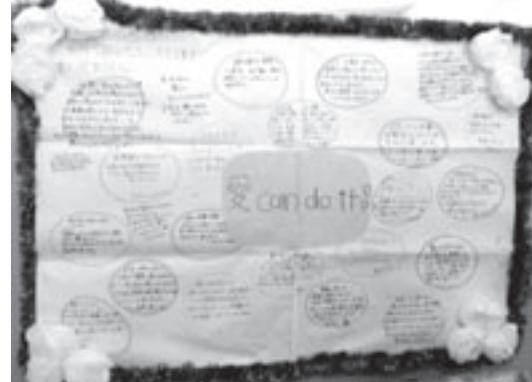


# 学校祭クラス発表テーマ 「愛can do it!! みんなのlove(愛)が世界を変える」

報告者 愛知県立瀬戸北高等学校 鹿原 優子先生

## 学校・生徒の紹介

本校は、愛知県瀬戸市にある普通科高校である（今年度より総合学科へ移行）。各学年6クラスで、うち1クラスが福祉実践コースである。私が担任をしている福祉実践コースの3年生は男子8名、女子28名であり、将来の進路は、介護、福祉、看護、美容や事務職など様々である。3年間かけて、社会福祉の制度を学び、現場でのボランティアや実習を通して福祉を学んできた。このような体験を通して、様々な疑問や社会の問題などを日頃より感じているように思われる。



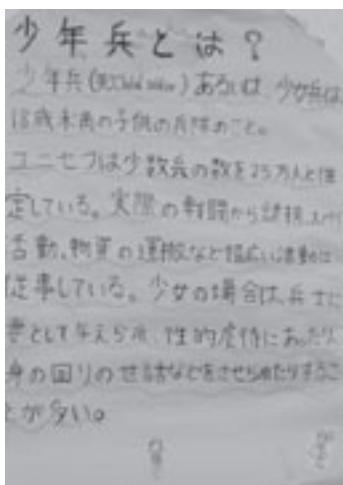
発表を見に来てくださった人たちの一言

## 実 践

### 1. 世界平和の願いの実現

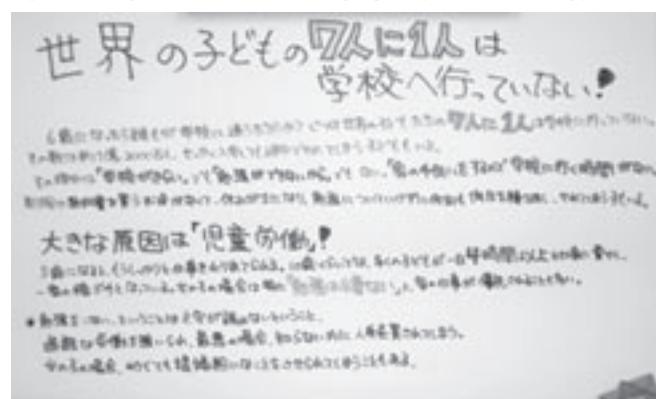
今年度の学校祭テーマは「One for All, All for One ~小さな優しさが世界を救う」であり、このテーマを受け、クラス発表のテーマを「愛 can do it!! みんなのlove (愛) が世界を変える」としました。世界を変るために私たちは何ができるのか、という大きなテーマであったので、そのなかでも自分たちと同じ年代の世界の子どもたちの状況を調べ、自分たちにできることをクラス全体で考えました。生徒たちの興味、関心は「子ども兵士」「ストリートチルドレン」「学校に行けない子ども」の3点に向けられました。まず様々な文献や資料から問題を整理することから始まりました。次に、どのような解決策があるかを探り、生徒自ら考え、まとめ、発表を行いました。中でも、そうした厳しい現状を詳しく調べる上で、ユニセフの資料「ユニセフと世界のともだち」「地球のともだちユニセフワークブック」などが参考になり、意欲的な学習に役立ちました。また、「子どもの権利条約」を柱として、解決すべき状況や方策を考えるために「子どもの権利条約カードブック」も非常に参考になりました。

[問題の現状把握と追求の視点]



少年兵とは

- ・少年兵、あるいは少女兵は18歳未満の子どもの兵士である。
- ・女の子には勉強は必要ないと、仕事が優先される場合がある。



世界の子ども 7人に1人が学校へ行けない

## 2. 世界の子どもたちの現状、ユニセフの活動をまとめる



少年兵はなぜ生まれるのか



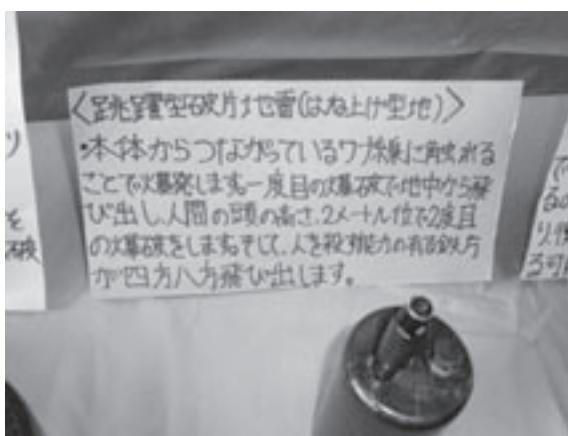
少年兵をなくすために

### ア. 子ども兵士

子ども兵士について調べたグループは、「最初は、単に子どもが兵士になったものと思っていたけれど、大人たちが子どもを誘拐して、無理矢理兵士にしている事実を知って驚いた。」「兵士になることで人生が狂ってしまうことがとても悲しい」と感想を述べています。

### (地雷の種類)

ユニセフから借りた地雷のレプリカを参考にして地雷の種類についてまとめました。



跳躍型破片地雷



破片型地雷



爆破型地雷・衝撃式地雷

また、実際に戦地で使用されている銃がどの程度の重さがあるのかということを調べ、その銃と同じ重さの銃をペットボトルで作り展示しました。

### イ. ストリートチルドレン

ストリートチルドレンについては、ゴミを拾って暮らす「スモーキーマウンテン」に模したものを、新聞・空き缶・ペットボトルなどで作成しました。そして、そのなかでお金になるものは何だろうかということを見に来てくれた人に考えてもらったりしました。



ペットボトルで作った同じ重さの銃

## ウ. 学校に行けない子ども

「学校に行けない子どもたち」との関連では、「水がめ」「指定募金キット」を使用しました。水くみに使われる水がめには、ペットボトル（2リットル）6本の水が入ること、その労働で学校に行けない子もいることの紹介をしました。また、その解決としてユニセフの活動をあげ、働きながら勉強できるところを作ったり、子どもが心や体によくない仕事をさせられないような法律をつくるために、その国の政府に働きかけたりしていることをまとめました。さらに、世界に目を向け、世界がより身近にとらえられるようペットボトルを軸にした地球儀を作成しました。



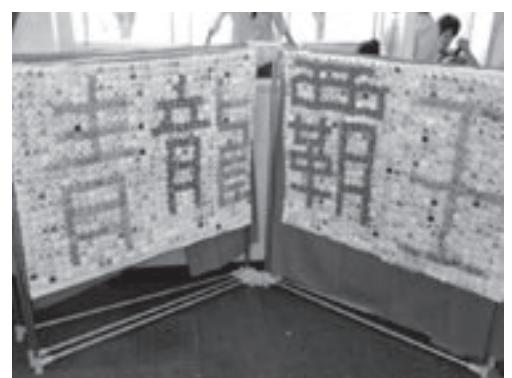
ペットボトル（2リットル）6本の水が入る水がめ



ペットボトルを軸にして作った地球儀

## 3. ペットボトルのキャップ集め

今回の活動では、世界の子どもたちについて、悲惨な戦争や厳しい生活の状況、そして学校にいけない子どもたちの現状を知り、そこから感じたことやわかったことを考えていくことが私たちにできる第一歩と考えています。そのことから具体的な活動としてペットボトルのキャップ集めが提案されました。具体的には、6月上旬にテーマを決め、そして9月中旬に行われた文化祭当日までに1クラスで3200個のペットボトルのキャップが集められました。生徒の中には、やると決めて動き出したことの結果として、目に見える形で満足感が生まれました。このキャップ1600個を使用し、「青龍霸王」という、体育祭を含めたクラスのスローガンを作成し、文化祭当日会場に展示しました。このスローガン制作を通して、生徒の中に大きな感動と団結が生まれました。集めたペットボトルキャップは近隣の工場を通して寄贈しました。



ペットボトルキャップで作成した  
クラスのスローガン「青龍霸王」

## 4. 成果

学校祭での展示や発表を通して、生徒たちは、厳しい状況におかれた子どもたちの現状を知り、その状況を解決し「子どもの権利条約」をいかに守っていくか、ということを考えることができました。特に、生徒たちが同じ年代の子どもたちの状況を真剣に考え、伝えようとする姿が伝わったと思います。見に来てくださった方からも「まずこういうことを『知る』ことが大切だと思いました」「あらためて考えさせられました。この学んだことを続けていけばよりよい国になるのかな」「世界平和。争いのない世界になりますように」「当たり前のことが当たり前でない国もあるということを改めて知らされました。いろんなことに感謝して生活することが必要ですね。」などという感想をいただきました。今後も機会あるごとに授業等で取り上げ、考えを深めていくようにしたいと思います。